

社協たより

第143号
2009.3.1

【編集・発行】社会福祉法人 直方市社会福祉協議会 〒822-0034 直方市山部側筒谷616-145
TEL 0949(23)2551 FAX 0949(23)2552 e-mail : nogata-shakyo@fuga.ocn.ne.jp



「精神障害者の作業所見学」



「ボランティア活動についての講演」



「介護予防活動について」

平成20年度地域福祉セミナーの様子

もくじ

● カンテラ	5
● 直方市総合福祉センター入館料無料実施について	5
● 高齢者に笑顔の花	5
● 国立療養所菊池恵楓園を見学して	6
● おもちゃも絵本もぐんと増えました	6
● 地域の輪 南校区社会福祉協議会「高齢者を励ます会」	6
● 駅前広場に障害者の意見を	6
● 図書室「食育について」	6
● 上映会のご案内「ふるさとをください」	5
● ボランティア活動支えます他	5
● ご寄付ありがとうございます	5
● 直方ボランティアのつどい開催	6
● 福祉・介護分野への就業促進特別相談窓口開設	6
● 「障害者相談支援センターるーぶる」利用のご案内	6
● 皆様からの声をお待ちしています	6
● 編集後記	6

一方で、住民が、生活問題を抱える当事者の悩み、苦しみ、生きづらさを他人事ではなく、自分たち地域の問題として捉えなおすべく、その問題解決に向けて主体的に行動していくことは住民主体のまちづくり（住民自治）と言われるが、そのような意識の変化を促す取り組みが必要である。

直方市社協では、主催の地域福祉セミナー（今年度全8回）の他に、小学校・中学校・高校等への福祉教育支援も行っている。今年度の地域福祉セミナーには48名の申込みがあり、実際に現場を見るという動きを取り入れ学習を続けている。参加者それぞれが意欲的に福祉活動について学習し、「住んでいる地域に何か持つて帰れないか」という意識変化も見られている。

社協の地域福祉セミナー等を受講された方が、地域の福祉活動の担い手になると同時に、社協も住民に信頼される組織として、これからも共に歩んで行きたい。

社会福祉協議会（以下、社協）は、生活問題を抱える当事者に寄り添って活動を進めていく組織である。



入館料無料を実施

(3月21日から3月31日まで)

前回の社協だよりでお知らせしました当福祉センター(以下センター)の浴場の閉鎖並びに利用者送迎バス運行廃止に伴い、これらの周知並びに今日までの長年のご愛顧に対する感謝の意をこめて、来る3月21日(土)から3月31日(火)までの間、浴場の御利用を含み、センター入館を無料で利用頂くこととしました。(3月23日、3月30日の休館日を除く)お気軽にお出かけ下さい。

なお、当センターでは、次年度以降も、従来どおり、各種相談支援やシルバー年齢層の健康体操、レクリエーション・カラオケ・囲碁などの憩いの場・ボランティアセンターとしての取り組みなど継続しながら、併行して、将来を見据えた総合的な地域福祉活動・相談支援等の拠点に相応しいセンターへと発展していくよう検討を進めています。

市民の皆様方の一層のご理解、ご支援をお願いいたします。

高齢者に笑顔の花を

「高齢者に笑顔の花」? 一寸
首をかしげる方も多いかと思
います。「高齢者も人なんです」と
言いたい気持ち。

私もいつのまにか高齢者の仲
間入りをすることになりました。
高齢になると疲れが中々取れ
なかつたり、今迄簡単に出来て
いた事が出来なくなったり、色々
不自由になってしまします。そ
の上、時代のスピードや次々に
登場するIT社会の情報に流さ
れ、とまどってしまいます。又、

最近の世の中は、どこを見渡し
ても暗い悲しいニュースばかり。
子どもをターゲットにした犯罪、
新たに発生した金融危機、労働
者の解雇、新しい希望の道に胸
をふくらませていた学生たちの
職場内定取消、人命無視の極悪
な犯罪の数々、高齢である私た
ちは若い人以上に心を痛めてし
まいます。この渦の中で私は考
えてみました。

いたずらに悲観するだけでな
く、又、行政にのみ頼るのではな
く、私たちにも可能な事、共生
出来る事が、日常生活圏域を拠
点に実現しないだろうか、この
様な状況だからこそ一人ひとり
の小さな力を結集して、笑顔の
花を咲かせたい。1ヶ月に一度
市内には色々な人的資源が豊富

な事を知りました。
何十年もフォークダンスの指
導をしておられた80歳の婦人。
25年前に音楽教師をしておられ
た方。日本舞踊を15年も続けて
おられる若いボランティアの方。
昔、人形劇や演劇をされていた
方。マジックの出来る方。

でもいい、公民館の小さな喫茶
店で、みんなでおいしいコーヒー
を頂いたり、お茶を飲みながら、
おしゃべりをしたり、困った事
を助け合ったり、励ましあつた
くりが出来ないだろうか。

この事は10年前から考えて
いました。福祉施策は身近な地
域でと、そして今年になつてや
とスタートラインに立つ事が出
来たのです。

最近各地区に誕生し始めた
「サロン」。それを参考に出来る
ことがあつても、地域性によつ
て、独自のグループ作りが必要

だと考えてます。行政まかせ
師を他に依頼するだけでなく、講
師を他に依頼するだけではなく、
身近な人的資源を見出し、活用
していく。長い年月沢山の経験
を重ねた高齢者だからこそ出来
る世界ではないでしょうか。

サロンづくりの目的と効果

1. 健康づくり
2. 楽しい仲間作り
3. 話し相手、友人を作る。
4. 口、体力低下を防止する。
5. 健康管理や栄養について
意識する。
6. 閉じこもりを防ぐ方策
7. 通院や買い物もままならないの
が現状です。



今年から新しく誕生を目指す

「おしゃべりルーム」。幸いな事に
町内には色々な人的資源が豊富

(毛利)

國立療養所
菊池恵楓園を

國立療養所

感させられた。

ハンセン病は感染するとの誤解から、自分には何の罪もない

惠楓園は熊本県合志市の国道38号線沿いの18万1千坪の広大な敷地の縁に恵まれた静かなたたずまいの中についた。園内は塵一つなく各所に植えられた樹木も手入れが行き届いて気持ちが良かつた。

スーパーや集会所、公園、教

会 病院などのある風景はまるで新興団地のようで、実に平和で素晴らしい環境に思えた。だが、私たちは、この地で數十年に渡り大変な差別を受け、限られたこの狭い世界だけで悔しい生涯を終えねばならなかつた多くの人々がいたことを忘れてはならない。また、社会復帰の機会がやつと巡つて来たと言ふのに、既に体調を崩し、退所出来ない多くの人が未だにいる

昨年末、植木校区民生委員・児童委員協議会の研修会で、同療養所を見学させて頂いた。

らの講話で、ハンセン病の知識や差別、療養所の歴史、生活環境について知っていたつもりだったが、実際に園を訪ね、園長の説明や園内見学、社会交流会館の展示物を見ることで、入所者が如何に差別されていたかを実

帰り限足あは、さけがたミ界はど芸にが爪めれ

ら引き裂かれ、親族との交渉を
断たれ、また自分の名前さえ変
えて生きねばならなかつた人
や、無縁仏として祀られた人、
せつかく授かつた子を取り上げ
られ、あるいは強制的に断種さ
せられた人の悔しさは、到底想
像する事は出来ない。

卷之二

子どもたちを見守っています。開館日数も、11月からは毎週火曜日に加え第2・第4土曜日を増やしました。1月末迄の開館実日数は31日間で、天使たちも90組、延人数230名来館してくれました。遅れていた貸し出しも同時に開始、親子で相談して、借りていくおもちゃを選び、有効に利用されており好評です。皆さんにもっと役に立つような図書館として拡充発展するための支えとして「日本おもちゃ図書館財団」よりおもちゃ購入・施設整備の助成金をいただき、2月に整備が完了しました。

また、「日販よい本いっぽい文庫」より絵本類50冊の寄贈があり、160冊保有となり十分に貸し出せますので御利用下さい。このような心強い応援に応えるため、ボランティアとして運営に当たっているスタッフ一同

- ③修理技術研修を実施し、おもちゃ病院を図書館内に準備する
- ④ふれあい行事（クリスマス会・お話し会・紙芝居・手芸品講習会）
- ⑤障害への配慮と工夫（障害児用教材の制作）
- ⑥専門的知識の導入（育成医療・育児専門職の助言受入れと研修）
- ⑦若い世代のボランティア参加要請
- ⑧障害当事者家族の意見を運営に反映させるための交流
- ⑨おもちゃやリサイクル寄贈のお願い

は、各自の個性と経験を活かし、オアシスとしての図書館の発展に向けて夢と希望の目標を立てています。

勲章・アンパンマン・日本人形の葉作りにも励みがでます。牛乳パックの子ども用の椅子も8台完成、布絵本・布おもちゃもスタッフ同志で研究しながら子どもに喜ばれるすばらしい作品が続々出来ています。

の力や絵本もぐんと増えました
子どもの生命が躍動しています

ための支えとして「日本おもちゃ図書館財団」よりおもちゃ購入・施設整備の助成金をいただき、2月に整備が完了しました。

また、「日販よい本いっぽい文庫」より絵本類50冊の寄贈があり、160冊保有となり十分に貸し出せますので御利用下さい。このような心強い応援に応えるため、ボランティアとして運営に当たっているスタッフ一同

⑧障害当事者家族の意見を運営に反映させるための交流
⑨おもちゃやサイクル寄贈のお願い

おもちゃや図書館は、障害に関する個性のある一人ひとりの子どもたちが、ふれあいのなかで命を育てていく交流の場です。

スタッフも、子どもたちの命と成長に触れながら、帰りにプレゼントする(色紙で作る)こままで

子どもたちを見守っています。
開館日数も、11月からは毎週火曜日に加え第2・第4土曜日を増やしました。1月末迄の開館実日数は31日間で、天使たちも90組、延人数230名来館してくれました。遅れていた貸し出しも同時に開始、親子で相談して、借りていくおもちゃを選び、有効に利用されており好評です。皆さんにもっと役に立つような図書館として広充発展する

③修理技術研修を実施し、おもちや病院を図書館内に準備する

④ふれあい行事（クリスマス会）

お話し・紙芝居・手芸品講習会

⑤障害への配慮と工夫（障害児）

にも使用しやすいおもちやの調査・絵本の点字添付

⑥専門的知識の導入（育成医療・育児専門職の助言受入れと研修）

⑦若い世代のボランティア参加

「おもちゃ図書館のおがた」の開館時、楽しい遊びの場とするため、色紙を折り、ひまわりの花で飾った壁は、季節の移りにあわせて紅葉となり、12月にやつてきたサンタさんとトナカイと一緒に帰った後の空には、多数の雪がるまが雪く星と載しながら

②利用者の云或比（直安或比ニ）
本・木製おもちゃ・折り紙等)を増やす

①独自の手作りおもちゃ（布絵
オアシスとしての図書館の発展
に向けて夢と希望の目標を立て
ています。

A small, dark brown bear is sitting in a light-colored wooden wagon. The wagon has three black wheels and a decorative pattern of three hearts on its side. The bear is looking towards the right.

【場所】直方市総合福祉センター1階
（直方市山部6-16-145）
【開館日】毎週火曜日、第2・第4土曜日
【時間】（午前）10時～12時
（午後）13時～15時
【料金】無料
【お問い合わせ】直方市社会福祉協議会
(電話) 0949(22) 0551

ゆつたりと子どもさんと遊び、交換の場として情報交換者間の情報「おもちゃや図書館のおがた」を活用してください。

勲章・アンパンマン・日本人形の葉作りにも励みがでます。牛乳パックの子ども用の椅子も8台完成、布絵本・布おもちゃなどもに喜ばれるすばらしい作品が続々出来ています。



 この社協だよりは、赤い羽根共同募金の配分金で作成しております。

地域の年齢

「高齢者を励ます会」開催

南校区社会福祉協議会



平成20年11月16日(日)直方市立南小学校体育館で「高齢者を励ます会」が盛大に行われた。当市は直方市長をはじめ来賓の方々、役員、高齢者(77歳以上)で会場を埋めつくした。

南校区では、75歳以上の方が150名以上ということで、高齢者の参加も年齢制限を行っている。ご来場の方々は、健康で幸せいな生活を行っている人や、独居高齢者の方々などで、一日を楽しく過ごしてみんなのふれあいを大事にして頂くことを大いに狙いとしている。

カラオケや手品・舞踊の披露など一流の先生方の励ましで、笑いや涙あり、又、若かりし頃の思い出話など大変なもので賑やかに過ごすことが出来た。特に中西省三先生の落語は高齢者を癒すことができたように感じた。自治区長・民生委員・児童委員の方々が事前の準備を万全にして臨んだことが、高齢者の生きる喜びを一段と増したような楽しい一日であった。

「障害者問題を考える直方市連絡会議」(障問題)とは、直方市が策定する「障害者計画」がノーマライゼーションの理念に則り、真に障害者市民の地域での公平な生活条件の整備につながるよう、市内障害者団体の連携のもとに、計画の策定段階から、見直し、最終目標に至るまで、調査、提言等の諸活動を開いていくことを目的に活動している団体です。

「市報のおがた」1月1日号の直方駅前広場・南自由通路のデザイン(案)に関する意見募集を受け、障害者市民にも使いやすい駅前広場になるよう、意見書を提出しました。

意見書は、障害者市民の意見を生かして欲しいことや、詳細



○点字ブロックの色は景観よりも大変危険なため、歩道が駐輪場とならないよう配慮して下さい。また、音声案内チップを埋め込んだ点字ブロックの設置をお願いします。

○点字ブロックの上に駐輪されると大変危険なため、歩道が駐輪場とならないよう配慮して下さい。また、音声案内チップを埋め込んだ点字ブロックの設置をお願いします。

●55歳からの夫婦の食育

他にも食育に関して興味深く、おもしろい図書がありますので紹介します。

●うおかつ流大人の食育

著者 若村 育子 発行者 松元 龍治 発行所 株式会社 山海堂

著者 上野 良治 発行所 合同出版株式会社

(栗原)

駅前広場に障害者の意見を

「障害者問題を考える直方市連絡会議」が直方市に意見書を提出

が分かる説明会を障問題に対し開催して欲しいとの内容を盛り込みました。

具体的な意見としては、次の4つです。

○れんがを基調とした舗装は、車イス使用者には、振動や漕ぎにくさが生まれます。また、杖歩行者等の障害者市民のことを考慮し、凹凸の少ない

○車イス使用者や杖歩行の障害者市民は乗降に時間がかかり、雨天時等びしょぬれになら、見直し、最終目標に至るまで、調査、提言等の諸活動を開いていくことを目的に活動している団体です。

○選食力を養う

○食事作法を身につける

○地球の食を考えています。

○点字ブロックの色は景観よりも大変危険なため、歩道が駐輪場とならないよう配慮して下さい。また、音声案内チップを埋め込んだ点字ブロックの設置をお願いします。

○点字ブロックの上に駐輪されると大変危険なため、歩道が駐輪場とならないよう配慮して下さい。また、音声案内チップを埋め込んだ点字ブロックの設置をお願いします。

●55歳からの夫婦の食育

他にも食育に関して興味深く、おもしろい図書がありますので紹介します。

●うおかつ流大人の食育

図書室

服部幸應のはじめての食育

著者 服部幸應
発行者 藤堂裕隆
発行所 株式会社ロータス

ボランティアに興味のある方

ご参加ください

▲昨年の風船バレーの様子



ボランティア（個人・団体）や障害児者、高齢者、子どもなどが、お互いの交流を深めることを目的に、直方市ボランティア連絡協議会と直方市社会福祉協議会の共催で、「直方ボランティアのつどい」を開催します。



[日 時]	平成21年3月20日(金) 10時～15時
[内容及び場所]	午前：風船バレー 直方市立西小学校体育館 午後：交流会 直方市総合福祉センター (電話) 0949(203) 215151

●障害者相談支援センター●

るーぶる

Loop+People(みんなの輪)

利用のご案内

■開館時間

火曜日から土曜日の8時30分～17時

■休館日

月曜日・祝日

■相談支援対象

直方市・宮若市・鞍手町・小竹町に在住または在住予定の障害当事者（身体障害・知的障害・精神障害）、当事者の家族や支援者など

■お問い合わせ

（住所）直方市津田町7-20

（電話）0949-25-7010

（FAX）0949-22-6080

（ホームページ）<http://www.normanet.ne.jp/~tyokuan/>



福祉・介護分野への就業促進特別相談窓口開設

福岡県社会福祉協議会は、企業の内定取消し、派遣・パート労働者の雇止めや、中途契約解除により離職した方々に対して、無料職業紹介や福祉や介護の仕事を希望する場合の資格取得の相談を受け付けるために特別相談窓口を12月19日に設置しました。

■お問い合わせ

福岡県福祉人材センター

（福岡県社会福祉協議会 福祉人材・情報部 人材・情報課）

（住所）春日市原町3-1-7

クローバープラザ 東棟2階

（電話）092-584-3310

相談時間 9時～21時まで

その他 平成21年3月31日まで
毎日開設



この日曜出会いの広場は、日頃外にでる機会の少ない高齢者、障害児者などが、お互いに集い「出会い」

交流を深めるためにボランティアの協力のもと実施しています。当日は、あいにくの雨にも関わらず、約60名の障害者やボランティア等が参加しました。

この日曜出会いの広場は、日頃外にでる機会の少ない高齢者、障害児者などが、お互いに集い「出会い」交流を深めるためにボランティアの協力のもと実施しています。当日は、あいにくの雨にも関わらず、約60名の障害者やボランティア等が参加しました。

編集後記

直方市社会福祉協議会
（電話）0949(203) 21551
（ファックス）0949(203) 215152
（メール）rogatasashkoo@fugaocn.ne.jp

お問い合わせ

皆様からの声をお待ちしています

（M）



この社協だよりは、赤い羽根共同募金の配分金で作成しております。

